

## 特集「金融サービス」の発行に寄せて

宮田 勲

日本ユニシスグループは創業以来60年以上、金融業界にさまざまなITサービスを提供してきた。今世紀に入ってからは、2007年に世界初のWindows®上で稼働するフルバンキングシステムである、オープンシステムで構築された勘定系「BankVision®」が百五銀行で本番稼働を始め、2021年には北國銀行にて、パブリッククラウドであるマイクロソフトのAzure上で稼働する国内初の「BankVision on Azure」の本番稼働を実現した。

日本ユニシスグループは2022年4月に、BIPROGYグループに商号を変更するが、引き続き金融機関でのDX（デジタルトランスフォーメーション）\*1を支援し、BIPROGYグループのPurposeの実現、即ち「先見性と洞察力でテクノロジーの持つ可能性を引き出し持続可能な社会を創出」するために、更なる進化を遂げていく。

金融機関を取り巻く環境は大きく変化している。世界経済ならびに日本経済は新型コロナウイルス感染症の拡大により大きな影響を受け、まだまだ先行きが不透明な状況が続いているが、各金融機関はニューノーマルな環境下での持続可能なビジネスモデルの確立、DXの取り組みとイノベーションの創出、SDGs/ESGに基づく将来事業の創造に力を入れて取り組んでいる。

with/post コロナ時代に適応するため、各金融機関はお客さまに寄り添い、伴走しながら、企業の経営支援を通じて、社会課題の解決に貢献できるよう、2021年11月に施行された改正銀行法を活用したサービス拡充・収益力向上を図っている。顧客へのエンゲージメントを高め、サービスを展開するエリア全体の活性化が着実に進むよう、今後の金融サービスは、更なる価値提供が求められている。

本特集号では、2022年4月より商号変更するBIPROGYグループの近未来に向けた金融サービスへの取り組みの一部を紹介する。今後も、金融機関をとりまく環境変化に対応すべく、テクノロジーの活用や、金融サービスの高度化をすることが、ビジネスエコシステムの構築へ繋がり、社会課題へも対処していくことが可能であると考えている。BIPROGYグループのPurposeの実現に向けて、今後も様々なチャレンジを行い新たな金融サービスを提供することで進化を図っていく。

本特集号が今後の金融サービスに対する取り組みについて関心を持つ方々の参考になれば、幸いである。

\* 1 新技術を取り込みながら、顧客企業の業務改革を加速することで、その先の利用者への新たな価値提供に繋げること

(執行役員)